

秋まで待てない！東京の最賃再改定を東京労働局要請

12月16日午後、目黒労協として東京労働局長へ「地域別最低賃金再改正の要請」を行いました。また東京地方最低賃金審議会にも、この要請を伝え、東京の最低賃金の早期再改定を求めました。労協役員、土建目黒支部からも参加いただき、東京労働局賃金指導官、3人に要請しました。

要請文・添付資料は目黒労協HP掲載

ただちに東京労働局長は、東京の最低賃金再改定にむけ、東京地方最低賃金審議会に諮問せよ。

と要請しました。現行法制上は東京の最低賃金は、

東京地区最低賃金審議会への諮問→審議→答申をもとに、東京労働局長が決定します。中央は目安を出すにすぎず、決定はあくまで東京労働局長名で行われます。これに労働局・賃金指導官から、最低賃金の決定は、①物価など生活費 ②賃上げの状況 ③企業の支払い能力 の3要素で行うので、「物価だけでは諮問する状況に至っていない」と説明が。そこで他の要素はどうか質問。

Q1：インフレ手当の支給・ボーナスの回答状況など、賃上げの動きはあるが、把握しているか？

A：特にまとめてはいない。

Q2：東京都区部の地場賃金は上がっているのではないかと？ 目黒でもコンビニ・飲食などすでに最低時給は1200円台であり、最賃に張り付いているのは、区役所の1110円など、公的支出のところばかりに見える。東京の賃金水準や、中小企業の経営状況など、東京都が調査しているものが多数ある。都庁との連携は行っているか？

A：特に行っていない。

目黒労協としては、全国一律最低賃金制が望ましいと考えるし、最低賃金法の改正が必要と思う。しかし今日の要請は、現行の最低賃金決定のしくみ・システムで直ちに取り組むべき問題である。東京労働局にも東京地方最低賃金審議会にも、現状の物価高騰化に苦しむ最賃近傍労働者の状況を考え、主体的に取り組んでほしい、として約1時間の要請を終えました。（目黒労協/事務局）

12月1日日本労働弁護団最賃シンポジウム

最低賃金をめぐって、各種団体のシンポジウム・集会が開催されました。日本労働弁護団のシンポジウムや、全労連の国会議員に聞く会などに、Zoom参加。集会資料など、目黒労協ホームページに収録しています。ご参照ください。（目黒労協/事務局）



主催：日本労働弁護団

最低賃金 シンポジウム

最低賃金の大幅引き上げと地域間格差の縮小を求めて

最低賃金は少しずつ上がり続けているものの、現在の水準では健康で文化的な生活を送るには不足しています。また、地域間に大きな格差があることも是正すべき課題です。

本シンポジウムでは、最低賃金が決まる仕組みや、これまでの取り組み、最低賃金引き上げによる経済への効果等を踏まえ、最低賃金の大幅引き上げと地域間格差の縮小のために、今後どのような取り組みをすべきかを考えます。

2010整理解雇から12年：JAL争議解決 CCU&原告団による報告会開催

12月10日、土建目黒会館で、日航客室乗務員組合（CCU:キャビンクルーユニオン）のご参加をいただき、目黒労協として開催しました。

井上議長のあいさつ： 争議解決ごころうさまから始めましょう。解決したらコロナ前の「争議勝利団結ビアパーティ」みたいにパーッとやりたかったが、今日はこじんまりです。でも追って昼食も出ますので、ご苦労様とねぎらいたと思います。

内田さん（元客乗原告団長）

「解決」の報告としては7月の解決以降初めてです。このような場を作っていただいております。目黒労協さんとは、団結ビアパーティのみならず、何十回もの宣伝行動などをともにし、お世話になってきました。（中略）



報告内容：質疑など労協HPに掲載

この整理解雇は、解雇が年齢の高いものから行われたことから、最高齢は59歳で解雇されずで70歳を迎える状況の中で、復職そのものが可能な組合員は減少、乗務復職はできなかったが、CCU原告3名が地上職で復職しました。CCUは全員の解決を求め、会社は70歳を超えた人も含め全員「業務委託」、自宅でできる・パソコンを使わない仕事も作る、と提案。会社側の準備もあり11月21日スタートしたばかりですが、体調不調者を除く42名は業務を開始しています。

2022年の整理解雇問題の協定書（乗員組合）、合意書（CCU）では、以下の項目

- ① 整理解雇問題解決を通じて労使関係の信頼関係の正常化に努力する。
- ② 健全な労使関係の安定化が「安全運航の基盤」のひとつであることを確認する。
- ③ 二度と整理解雇が生じないよう経営の安定化に向けて努力する。
- ④ 希望者全員に業務機会の提供を行う。
- ⑤ 問題が発生した場合、引き続き誠意をもって組合と協議する。

これを労組のみならず解雇された44名の三者で合意を交わしました。これは私にとっても入社以来最も踏み込んだ労使合意であり、さらに社長名の44名各自にあてた文書を求めました。従来の定年退職者と同様の、筆耕者によって氏名が書かれ名誉回復の意味が込められたレターが全員に出されました。

「解決金」という形は、会社も社長もできないと何回も発言してきています。44名は私たち特別執行委員3名を含め、全員組合員として、解決を図りました。解決にあたり日航のOB会（10年以上勤務が条件）にも希望者全員対象で、福利厚生面では優待券も提供される。これも「謝罪」に代わるものかと思っています。毎月の「業務」も今後の課題であるが、解決内容は以上のようなものです。

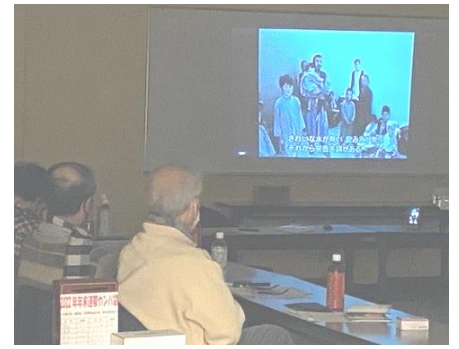
いくつか質疑後、花贈呈。鉢植えにしました。ついで乾杯・お弁当となりました。ビールかお茶付き。

目黒労協副議長の締めあいさつで、3時間ほどの充実した時を終えました。（目黒労協/事務局）



12月17日 めぐるユニオン望年会

上目黒住区センター、コロナで閉まっていた地下1階が再開し、借用したら、一酸化炭素濃度計を渡されました。欠席連絡も多少あり。開会時参加10名。各自全員の近況報告の後、映画。「荒野に希望の灯をともしよう」医師・中村哲氏のアフガニスタン活動記録を上映しました。
(めぐろユニオン/通信員)



歳末抽選会の前で9の日宣伝

12月9日は定例の9の日宣伝。学芸大学商店街のガラポンのカネがなる中、東京都の無料PCR検査のよびこみとともに、マイク宣伝、ティッシュ配布、署名のお願い。大軍拡宣伝の中、「戦争反対」のプラカードつけて署名ボードをさげていると、署名をしにやってくる人。30分で5人！ みんな「危機感」を持つ2022年末です。
(目黒労協/事務局)



12月1日全労連争議支援総行動

12月1日(木)の終日、全労連・東京地評争議支援総行動が展開されました。(19社前集会などが行われました。15争議団の取り組み、目黒労協ホームページに収録しました。) 日本IBM支部は、日本IBMとキンドリルジャパンによる、従業員の使い捨て7つ道具である、パウハラ4点セット(パウハラ低評価、パウハラPIP、パウハラ賃下げ、パウハラ降格)、および賃金三重苦(低賃金、低ボーナス、手当無し)と闘っています。

午後、JAL本社前ではJAL被解雇者労働組合(JHU)による集会が行われています。実行委員会や支援団体、当該労組の代表らが会社に面会を申し入れましたが、これまでと同様に、会社は社内には入れず、社屋の外で要請書を受け取る対応でした。写真は、IBM本社前行動のJMITU目黒地域支部、東日本三菱自動車支部の仲間。(JMITU目黒/通信員)



11月28日社保協「保育」と「補聴器」宣伝

目黒社保協の呼びかけで11月28日(月)の夕方、学芸大学駅の西口で「保育予算の増額を求める」宣伝・署名行動を、東口で「補聴器購入の補助を求める」宣伝・署名行動が行われ、多くの団体関係者が参加しました。「保育」宣伝には、保育士や保育関係者も多く参加、マイクで通行する人たちに署名の協力を訴えました。「補聴器」宣伝は、社保協で目黒区議会に陳情を提出していることもあり、翌日の委員会採決に向け熱のこもった訴えとなりました(*11月29日の区議会生活福祉委員会で、陳情は採択されず継続審議となりました)。

社保協による宣伝行動は、年内はこれで終了します。来年も、区民生活や福祉の向上をめざし活動していきます。宜しくご支援をお願いします。(目黒労協/事務局)

自治体キャラバンパート19 スタート学習会

12月13日夜、大塚のラパスホールで、東京春闘共闘の自治体キャラバンスタート集会、会場に41人、オンラインで10人参加。速記録は目黒労協ホームページ記載。

なお目黒区はアンケートに回答するも、直接の懇談を断ってきた模様です。回答精査・質問、懇談再要請を準備中です。

